

論文審査の要旨

報告番号	乙 第 2872 号	氏 名	宇野 裕和
論文審査担当者	主査 田中 和生 教授 副査 小林 真一 教授 副査 相良 博典 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>薬剤性過敏症症候群 (drug-induced hypersensitivity syndrome: DIHS) は human herpes virus (HHV)-6 など再活性化されたウイルスによる臓器障害を生ずる重症薬疹である。DIHS の病勢を反映する因子やウイルスの再活性化を惹起する因子の検討はされていない。DIHS 14 例を対象に血清 TNF-α, IL-6, CRP, LDH を治療前後に測定し、そのほかの重症薬疹と比較した。その結果 DIHS 群のみで TNF-α, CRP, LDH が治療と平行して有意に減少し, HHV-6 再活性化時には上昇しなかった。DIHS 群は erythema multiforme (EM) 群と比し治療前の IL-6 が高値であった。HHV-6 の再活性群と非再活性化群を比較すると、治療前の TNF-α, CRP, LDH が再活性化群で有意に高かった。本論文は DIHS において TNF-α が病勢を反映するバイオマーカーとして有用であり, HHV-6 再活性化の予測因子となり得ること, 発症早期の IL-6 値は DIHS と EM 型薬疹の鑑別に役立つことを明らかにしたものであり, 学術的価値があり学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名 :</p> <p>TNF-α as a useful predictor of human herpesvirus-6 reactivation and indicator of the disease process in drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS)/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS) (薬剤性過敏症症候群において TNF-α は病勢を反映し、ヒトヘルペスウイルス 6 再活性化の予測因子となり得る)</p> <p>掲載雑誌名 : Journal of Dermatological Science 2014 年 掲載予定 (DOI: 10.1016/j.jdermsci.2014.01.)</p>			